

日本バプテスト連盟

憲法改悪を許さない

私たちの共同アクション

# ニュースレター

2020 年 9 月 16 日 No.63

さいたま市南区南浦和 1-2-4 日本バプテスト連盟



## 8・15東京集会 基調報告

泉バプテスト教会 城倉 啓

毎年の 8.15 集会が大切にしてきたこと（意義）を、いわゆる「コロナ禍」と呼ばれる状況の中で問い直し、深め広げることが私に与えられた課題です。

8.15 集会は、敗戦記念日に設定されていることから、「平和」ということに思いをいたす集会です。それも「武力によらない平和」というところに力点があります。だから平和憲法を活かすという学びを続けてきました。私自身もそうですが、集会出席者の多くは「憲法 9 条は個別的自衛権も放棄している」という立場を保っていると思います。毎年の当集会は、武力によらない平和を基点にして、今の改憲の動き、自衛隊、在日米軍基地、日米安保条約、日米地位協定、原子力行政、東北アジアの外交政策を批判してきました。

「コロナ禍」となる前、実行委員会は東京オリンピックに焦点をあて、経済が軍事・外交を支配していることを炙りだそうとしました。国を超えたお金儲け集団のために、国の政策も左右されています。戦争が経済を必要としているのではなく、経済が戦争（特に小国間の「紛争」や、大国から「武装勢力」への一方的暴力）を必要としています。「経済力による戦争」です。

スポーツも国家主義（為政者の求心力を高めること）に利用され、その国家主義すらも、オリンピックのスポンサーになれるような大企業のために利用されています。結局のところ、拝金主義・経済至上主義・商業主義を思想的に批判しなくてはならない。一人ひとりに多様な幸せを配るシステムを再構築しなくては、一色に煽られ「政府による

戦争という惨禍」を繰り返すのだから。実行委員会は、そのように考え東京オリンピック批判を軸に企画をしていました。

ご案内のように、「コロナ禍」が起こり、選挙を睨んだ政治的駆け引きのもとオリンピックは「一年延期」となりました。オリンピックを焦点・軸と考えていたところの梯子が外された感がありましたが、逆に興味深い事態が起こったとも思います。この間政府や自治体が行ってきた個々の政策批判というよりは全体を巨視的に見て、この「コロナ禍」を「武力によらない平和の再構築」という構想を鍛える出来事としたいと考えます。

新型コロナウイルス感染に対して軍隊は何も役立たないものだったということをもまず指摘しておきます。軍事力によって病気は予防もできなければ治癒もできません。パンデミックは一時期戦争を止めました。戦争がない状態を平和というのならば、「パンデミックによる平和」とでも言うべき状態が生まれました。このことは、私たちに資源と労力とお金の無駄づかいをやめるように、そして共通の課題に協力するようにと促しています。そうすれば戦争はやみます。国境もウイルスは人知れず超えました。国境は逆に邪魔となることさえありました。

この事態にヒントを得て、次のように構想・夢想します。世界保健機構や国連人権委員会を中核に据えて、世界政府・地球連邦を組織するのです。現在の国連のように五大国が優遇されるものでもなく、EUのように複雑な組織も取らない。単純に共通の税制度・健康保険制度・年金制度を敷いて、食べ物と薬やワクチンを優先的に貧しい人びとに配分するための連邦です。タックスヘイブンのような悪質な脱税を認めないためには世界全体で共通の公正な税制が必要です。そして集めた税を原資に世界中の海のゴミをみんなで拾う仕事をするべきでしょう。

一旦目を日本国内に転じ、後で世界については再び論じます。

コロナは元々あった課題を別の角度から照らしました。東京一極集中です。もともとあまりにも偏りすぎだったのです。コロナ前に飛行機が飛んでいる期間、急速にウイルスは世界中に伝播しました。もともと速すぎだったのです。コロナ後に飛行機があまり飛ばなかった期間、地球規模で大気がきれいになったそうです。もともと汚しすぎだったのです。

コロナ危機はもともとの社会的弱者をさらに苦しめました。家の外で働かなければ生きていけない人々です。感染者の分布は、低収入の人に偏っています。オンライン授業は、コンピューターを自宅に持っている人と持っていない人の線をはっきりさせました。もともと収入と学歴は正比例していました。収入の不平等がもともとの問題です。

人生のルールがただ一つのように思わせていることも、もともとあった問題です。高学歴の男性が高収入を保証するという画一化が、そこに順応できない人々を苦しめてい

ました。全員が引きこもらされた時、私たちは苦しむ人びとに共感できました。その一方で、もともとあった同調圧力による相互監視や、特定の職種や感染者に対する差別も起こりました。ハンセン病患者への差別や、福島からの移住者への差別も、根っこは同じです。

小泉政権以来 2000 年代から医療福祉予算は切り詰められてきました。もともと PCR 検査を行うべき保健所の数や、患者の治療にあたる医療従事者の数は足りませんでした。医療崩壊の原因の一つは新自由主義政策です。その一方で軍事費はどんどん高くなっています。この間、大企業への法人税は軽くなり、消費税は重くなりました。国内の税制の歪みと使い道の拙さも問題です。

家に留められ政治に参加する時間が与えられた人々はツイッター上で政治的デモを起こし、一つの不正な法律改悪をとどめました。ステイホームの副作用です。わたしたちは風邪気味でも満員電車で揺られて働かざるをえないほどに長時間労働に縛られ、政治に参加する余力が奪われています。ステイホームは時間と労力に余裕を残す生き方を掘り起こしました。

市民運動に携わる人には独特の「選民意識」があって、政治参加しない人や、対立する論争相手を小馬鹿にする時があります。人々はもともと愚かなのではありません。子どもの頃から考える時間を上手に盗まれ、対立する相手との話し合いによる自治に慣れていないだけなのです。

ではどんな国になれば良いのでしょうか。対案である「武力によらない平和な国づくり」を構想しましょう。経済的軍事的小国・道義的大国になることです。自分の国際的立ち位置を定めている北欧諸国はコロナ禍にあってもうまく対応していると言われていきます。

一つの柱は、「コロナ禍」からのヒントで、散らばること・きれいにすること・ゆっくり自分の歩調で動くことです。

まずは地方自治体が自給自足できる社会です。農林水産業従事者を公務員にしても良いと思います。そうすれば天候によって収入が左右されません。高級官僚らの給与は減らします。ゴミとエネルギーのリサイクルも時給自足のサイクルに混ぜていきます。江戸時代にできていたことがなぜ今できないのでしょうか。都道府県単位の連邦制国家に改組します。基地立地や原発立地自治体の意思を尊重し、米軍も原発もなくします。

次に短時間労働社会です。たとえば通勤時間など全拘束時間を労働時間とみなす法律をつくれれば、使用者も遠隔地労働者を雇いにくくなります。幼稚園の保育時間レベルに労働時間を短くして、近所で就労するのです。明るい時間だけ働けば免疫力も上がるでしょう。出張はしないでリモートで済ませます。大気汚染である飛行機の使用をやめ、

戦争をやめることにつなげます。

こうして自治や趣味に使う時間を捻出します。選挙運動も政治活動も一年中どこでもできるようにします。くじ引きで議員を決めても良い。夜間議会でボランティアにすることも可能です。そして自分たちの税金の使い道を自分たちで決めるようにするのです。源泉徴収をやめ、納税意識を高めることも必要です。

二つ目の柱は困っている個人のために税金を使うことです。

税の累進性を強め、金持ちからより多く徴収し、困っている人たちに再配分します。自衛隊は災害救援隊に改組します。救援ヘリのみ空を飛び乗り物として許しますが、軍用機・イージス艦、武器は金の無駄です。病院を増やし医療従事者を増やし医療費を無料にします。ゼロ歳から大学院まで教育費を無料にします。東大を頂点とする受験や学校の宿題を廃止し、人権教育と主権者教育に力を入れます。就労できない人への生活保障をします。ベーシックインカムもありえます。

すべての差別を禁止します。最優先は女性差別の禁止です。被差別者の数が一番多いからです。女性への差別と搾取をしないために意思決定機関に人口に比例した割合の女性を置きます。そして同時に少数者に対する差別も許さないようにします。日本国籍を持たない人、性的少数者、しょうがいのある人には人口比と関係なく議席を割り当てます。天皇制という差別的な貴族制度も、戸籍制度・家制度も廃止します。

三つ目の柱は平和外交です。日米軍事同盟を破棄し、EU の取り組みを東北アジアでも展開します。まずは朝鮮半島二カ国と「東北アジア連邦」を形成し、通貨を統一し交流を活発にして朝鮮半島統一を仲介します。モンゴルや台湾、フィリピン、ロシアの一部、中国も巻き込んでいきます。その間に米国等によって軍事侵略されたら、武力抵抗せずに降伏し、非暴力抵抗の民主化運動を推し進めます。香港の人々と連帯するのです。

道義的の大国は世界政府構想のために汗をかきます。そして道義的の大国だけが説得力をもって、同意する国を増やすことができます。武力によらない平和を日本が率先して始めたいと思います。

これらの国々と連邦はもともとパンデミックに「強い」と思います。発生しにくくなるし、発生後も対応できます。各自治体で生き残れるからです。

8.15 集会は、闇の中に差し込む光を確認する集会という意義を持っています。コロナ「禍」を逆説的に「幸」のために用いたいと願います。コロナゆえにはっきり気づいたことではありますが、コロナがあろうがなかろうが（through but although COVID-19）幸せな世界を夢想し、その実現を目指しましょう。

去る 2020 年 5 月 3 日に予定されておりました

**「バプテスト憲法フェスティバル in 東京」**

が新型コロナウイルス感染予防のため、中止となりました。「教会でできる憲法の話」をテーマに 4 つの講座を準備していました。その中の 1 つ

**「聖書のドアから入る憲法の話」** を紹介いたします。

**旧約聖書の「偶像」から考える「憲法」**

恵泉バプテスト教会 千野 肇

[十戒]

有名な出エジプトの物語には、主なる神がモーセを通して、十戒を告げられたことが記載されています。(出エジプト記 20 章 1-17 節) その第二戒は、「あなたはいかなる像も造ってはならない」です。なぜ、第一戒「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」のすぐ次に、この第二戒があるのでしょうか？

[滅亡]

モーセにより約束の地に導き入れられたイスラエルの民は、その後ダビデ王による強力な王国になります(紀元前 1000 年くらい)。しかし、ダビデの子ソロモンにより栄華を極めたイスラエル王国は、北イスラエルと南ユダの 2 つの国に分裂してしまいます。そして、東に起こった強大な帝国アッシリアにより北イスラエルは滅亡し(紀元前 722 年頃)アッシリアを滅ぼして台頭したバビロン帝国により南ユダの王都エルサレムも陥落(紀元前 587 年頃)、バビロン捕囚期を迎えます。列王記下 17 章 13-19 節…この箇所には、なぜ主の民が滅びに至ったか、その原因がはっきり記されています。「主の掟と、主が先祖たちと結ばれた契約と、彼らに与えられた定めを拒み、空しいものの後を追って自らも空しくなり、主が同じようにふるまってはならないと命じられたのに、その周囲の諸国の民に倣って歩んだ。」と。第二戒、それを破る時、残る三戒から十戒までをことごとく破ることになってしまうのではないのでしょうか？ つまり、このようになるのではないのでしょうか？わたしたちは、「主の名をみだりに唱え」、「安息日を心に留めず」、「父と母を敬わず」、「殺し」、「姦淫し」、「盗み」、「偽証し」、そして「隣人の家を欲する」ようになる。偶像、それは、単に刻んだ像を造ることにとどまらず、やがては主を見失い、人と人との正しい関係を失い、そして人が人を支配していくことにつながるものといえます。偶像による強大な力の支配を頼みとし取り込まれる時、人間は滅び

の道に入っていくのではないのでしょうか。

#### [預言者の言葉]

滅亡の時代を迎えた時、旧約の預言者たちはどのように主の言葉を伝えているのでしょうか。イザヤ書 44 章 16-20 節…(偶像に) 惑わされた心は、その道を誤らせる(20 節イザヤ書 65 節 11-14…主を捨て、禍福の神に食卓を整える者は(11 節)、剣を渡され(12 節)、魂を砕かれて泣き叫ぶ(14 節)。また、イザヤは、このようにも預言しています。イザヤ書 58 章 6-11 節…飢えている人に心を配り、苦しめられている人の願いを満たすなら、あなたの光は闇の中に輝き出で(10 節)、あなたは潤された園、水の涸れない泉となる(11 節)。偶像に心を奪われた時、人間は道を踏み誤り平和は遠のく。しかし主なる神に立ち帰る時、新しい天と地が創造される(イザヤ書 65 章 16-17 節)という祝福が与えられるのです。エレミヤ書 22 章 1-5 節…しかしもしこれらの言葉に聞き従わないならば、この宮殿は必ず廃墟になる。エレミヤ書 23 章 13-15 節…彼らはバアルによって預言し、わが民イスラエルを迷わせた。彼らと共にいる者はゴモラのようだ。エレミヤもまた、神ならぬものに従う時、滅びが到来することを預言していますが、しかし、このようにも語っています。エレミヤ書 31 章 31-34 節…わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す(33 節)。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない(34 節)。これらの言葉は、イエス・キリストの救いの言葉へと深くかかわる言葉ではないのでしょうか。

#### [偶像の働き]

最近私は、なぜこれほどまでに旧約時代の預言者は偶像に対する警告を語ってきたのか、について考えています。その理由として、「偶像に従う」=偶像を利用して人をあやつり、人を支配し、あまつさえ人の命を犠牲にすることを正しいこととしてしまう。偶像はそのような役割をするものだ、と思いいたるようになりました。偶像を用いると、他者をコントロールし、他者を差別し、他者の生活を犠牲にする、そのようなことがいともたやすく行われてしまう。モーセの時代から、偶像の危険性はあったことでした。そして偶像に支配された社会は、大量の死を招き、滅亡への道を歩んでしまうのです。アッシリアの時代そしてバビロニアの時代を紐解くとき、その恐ろしさは、明確であるといえます。北イスラエルの王、そして南ユダの王たちが、主なる神でなく偶像を頼みとした結果、どのような結末を迎えたか。逆に見ると、その滅亡の時代、奪われた無告の民の命、殺戮、その苦難と悲しみを通して、「創造主である唯一の神に造られた、一人一人の命を大切にす、それが正しい人間の生き方」という信仰が、長い旧約時代の預

言者たち、そして旧約聖書の編纂者たちによって、育まれたのではないのでしょうか。主イエス・キリストは、その旧約の預言の中から、正に「神のひとり子」として、誕生したのです。

#### [日本国憲法]

近代憲法の中核にあるのが「人権保障」です。最初は国家権力からの自由を中心とするものでしたが、資本主義の進展により「社会権」が加えられるようになりました。国民の権利・自由を保障するという近代憲法の基本原則を維持しつつ、社会権の保障による実質的平等を求める現代憲法へ発展してきたのです。日本国憲法は、「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」の3つを基本原理とし、その前文に特徴的な基本原理が示されています。

#### 前文より

『日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。』

ここに謳われている平和主義は、自分たちは戦争をしないこと、戦争のための武力を持たないこと、を宣言している9条につながる基本原理といえるでしょう。日本国憲法のこの平和主義は、先の大戦の膨大な犠牲、他国においてどれだけの死をもたらしたか、そしてまた、日本においてもどれだけの民衆が犠牲になったか、その血と叫びと苦しみの中から、その深い痛みの中から与えられたと言っても過言ではありません。

その流れは、上記で振り返りました旧約時代における民族滅亡、殺戮によるあまたの犠牲の後に生まれた、イザヤ、エレミヤの預言ととても共通した流れではないのでしょうか。旧約聖書における預言、そして救い主の誕生を待望する預言も、民衆の血と叫びと苦しみの中から与えられたのではないかと、私には思えます。さらに共通点はもう一つあります。上記しましたように、旧約聖書において繰り返し警告される「偶像」の働きを考えてみると、なんと戦前の日本社会と類似していることでしょう。天皇制ピラミッドによる偶像社会の中に人間が取り込まれている時、主なる神と人との関係は崩れ、人々との関係は崩れ、権力者が他者を意のままに支配するようになり、支配される側の命は犠牲にされて行ったのです。日本国憲法に「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」と謳われているのは、決して偶然なく、偶像の支配する社

会体制からの脱却をめざさなければ、人権はないがしろにされ、再び戦火の時代になり、多くの人の命が犠牲になる、という反省があります。偶像の支配する社会から脱却を目指そう、旧約時代の預言者はそのように呼びかけていますし、また日本国憲法も人権・社会権・平和に生存する権利を求めるために、偶像支配と対峙する基本原理を有しているのです。

[終わりに]

二度と再び偶像に操られないために、二度と再びキリスト者の信仰が脅かされないために、二度と再び戦争国家の社会に戻らないために、平和の主、イエス・キリストの教えを実現するために、いまある日本国憲法の平和主義を活かす道を共に考えていければ、そのように願います。

### オンライン「憲法カフェ」のご案内

「憲法アクション担当者会では、

日本国憲法を私たちの生活に身近なものとして学び、語り合う場を作るための

「憲法カフェ」を主催しています。

8月からオンライン（ZOOM）での憲法カフェの場を用意しました。教会や各集会の学びなどお気軽にご相談ください。開催希望につきましては委員会まで

（林健一・太田教会 0277-40-4774）